e&e REPORT

No.297

発行日　2026年8月27日
川崎市中原区市ノ坪223-4-515
電話/FAX　044-434-7291
メール　　miyamoto@d03.itscom.net

E&Eレポートは、企業・国・海外の省エネや環境情報を、少しでも皆様にお届けしたいという思いから、毎月発行しているニュースレターです。
地球温暖化防止にお役立て頂ければ幸いです。

ToPic 企業動向

●ソーラーカーポートでPPA、電気代1千万円削減＋再エネ調達　大型ホムセン



ホームセンターを展開するジョイフル本田は、宇都宮店に大規模ソーラーカーポートを設置し運転を開始した。コーポレートPPAを活用することで、長期にわたり安定した電力単価で再エネの利用が可能となり、年間約1000万円規模の電力コスト削減効果を見込む。CO2排出抑制効果は年間約486tとなると試算している。
発電容量は1.1MW、電力自給率は17.3%に
今回、宇都宮店に導入したソーラーカーポートは、346台分の駐車スペースを対象とし、発電容量は1,126.4kW、年間の想定発電量は約120万kWhで、ホームセンター業界でも最大級規模の設備となる。この導入により電力自給率を17.3%まで高める。
宇都宮店は、しろくま電力が第三者所有モデル（PPA）により設置した。しろくま電力が出資する合同会社NaFが発電設備を所有し、しろくま電力が設計施工、運用管理、電力供給を担う。「環境ビジネス」

一言メモ　　ソーラーカーポートは顧客、企業双方にメリットがある。

●日本ペイント（株）　建築物・CO2最大約43%削減と耐久年数20年を実現した新塗料「グリーンループBMK」を発売決定



「グリーンループBMK」は、マスバランス方式のバイオマス樹脂の採用により、下塗りを含むトータルでCO2排出量最大43%削減を実現。期待耐用年数20年と高い耐候性をもつため、塗り替え回数の低減によるライフサイクルコスト抑制にも寄与する。
日本ペイントは、環境配慮型かつ高機能なバイオマスバランス式低炭素水性1液無機系塗料「グリーンループ BMK」を発売する。石油資源への依存低減を狙った水性塗料。あわせて、カーボンフットプリント（CFP：Carbon Footprint of Products）を算出、レポートを提供するサービスを通じ、製品CFPデータの提供を支援する。
日本国内のCO2排出量のおよそ40%を占める*3建築物分野では、低炭素型建設資材の普及が重要テーマとなっている。2028年度を目途に、建築物ライフサイクルアセスメント（LCA）の実施を促す制度の開始が目指されている。「環境ビジネス 」

一言メモ　　（建築業界も徐々にCO2削減に進んでいる。）

●伊藤忠商事とダイキン工業の基本合意を受け、空調機由来金属資源の循環利用を推進



ダイキンは、伊藤忠と業務用空調機における資源循環の高度化と再生材の水平利用拡大を目的に「再資源化事業等高度化法（類型①）」の枠組みを活用した包括的業務提携契約を締結した。
循環型経済への移行が進む中、業務用空調分野においても、使用済み機器に含まれる資源を再び製品に活用する水平リサイクルの重要性が高まっている。一方で、再生材を製品に安定的に適用するためには、品質評価やトレーサビリティを含めたサプライチェーン全体での管理が欠かせないことから、製品の回収から再資材化、製品適用、品質保証までを一体で管理する仕組みの構築が課題となっていた。
ダイキンと伊藤忠は、ダイキンが持つ製品技術や品質保証、伊藤忠が持つリサイクル知見やネットワーク、データ管理力といった両社グループの強みを生かし、不要となった業務用空調機の回収から再資材化、製品適用までを一体的に推進し、環境負荷低減と持続可能なサプライチェーンの構築を目指す。「環境ビジネス」

一言メモ　資源の少ない日本は水平リサイクルは重要。

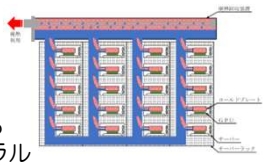
●アンモニア燃料を用いた陸用発電向けレシプロエンジンの実証試験を開始



IHIグループは、アンモニアの供給網構築と燃料利用技術の開発を進め、低炭素電源の普及を目指している。火力発電所のボイラ転換やアンモニア専焼ガスタービンに加え、陸用発電向けアンモニア燃料レシプロエンジンを展開する。実証設備には6MW級のアンモニア・重油デュアルフューエル機関を採用し、アンモニア燃料比率とGHG削減率90%以上を目標とする。離島、データセンター、鉱山、工業団地などへの導入を想定し、既存ディーゼル発電の低炭素化を進める。実証では、発電性能だけでなく燃料供給、排気処理、漏洩対策を含む安全性・運用性を検証する。将来はアンモニア専焼機関によるCO2排出ゼロを目指し、アンモニア需要とバリューチェーンの拡大に貢献する。「IHI」

一言メモ　　CO2削減率が90%以上あるので早期の実用化が重要。

●「データセンター廃熱利用実装促進事業」採択について ～廃熱有効利用モデルの構築を目指す～



東京電力は、東京都の「データセンター廃熱利用実装促進事業」に採択された。生成AIの普及でデータセンターの電力消費や発熱量が増加する中、廃熱の有効活用が重要になっている。本事業では、東京電力が開発する「WaBiCo」の技術（Watt Bit Cogeneration：電力（Watt）を大量消費する高性能な電子機器（Bit）のエネルギー効率を高める概念）を活用し、データセンターから高温の廃熱を回収。サーバールームの冷房や近隣の温浴施設、工場などへ供給するシステムの実用化を目指す。これによりデータセンターのエネルギー効率を高め、PUE（Power Usage Effectiveness）を改善するとともに、環境負荷やCO2排出量の削減につなげる。さらに、廃熱利用を通じた地域との共生を進め、カーボンニュートラル社会の実現と、2040年度までに首都圏のデータセンター需要伸び率を世界トップクラスとする目標の達成を目指す。「日本蓄電池」

一言メモ　　DCの排熱利用は今後、ますます活用の検討が必要。

●セブンイレブン、テスラの急速充電器を初導入　26年度中に約10店舗へ拡大



セブン - イレブンは、Tesla Japanが展開するEV用急速充電設備「スーパーチャージャー」を初めて導入すると発表したセブン - イレブン川崎子母口東店で4基の運用を開始した。コンビニの買い物の合間に急速充電できる環境を整備する。
この取り組みでは、テスラの充電規格「NACS」に対応した急速充電設備「スーパーチャージャー」を導入する。最大出力250kWで、約15～30分の急速充電に対応する。利用料金は充電出力によって異なるが、1分当たり37～200円。24時間利用可能だ。買い物中の充電ニーズに対応するため、2026年度中に約10店舗へ順次設置する予定だ。
テスラは世界最大級の急速充電ネットワークを展開しており、日本国内でも150カ所・744基のスーパーチャージャーが運用されている。コンビニをEV充電拠点とする取り組みでは、ファミリーマートが進めており、全国約530店舗に急速充電器を設置している。「環境ビジネス」

一言メモ　　コンビニは生活の重要な拠点に替わっていくように感じる。

ToPic 官公庁・海外動向

●国が許可した千葉県沖CCS試掘、123件の意見ほぼ反対　情報開示で判明



千葉県九十九里沖でのCCS試掘を巡り、FoE Japanは、経済産業省への情報公開請求で開示された資料を基に、住民などから寄せられた123件の意見を分析した結果、ほぼすべてが試掘に懸念や反対を示す内容だったと発表した。
経産省は4月、法令に基づく審査を経て試掘を許可しており、FoE Japanは「住民意見が十分に反映されなかった」として制度運用の見直しを求めている。情報公開で123件の意見を分析、その中身は？
地震によるCO2漏洩の可能性や海洋生態系への影響、漁業への悪影響を懸念する声のほか、事業内容や安全性に関する説明不足、住民との対話の不足、公費投入の妥当性を疑問視する内容などが挙げられた。
試掘エリアに面する匝瑳市・横芝光町・山武市・九十九里町に在住していることを明記した意見は33件あった。さらに、沿岸地域に在住・勤務していることや地域のサービスを利用していることを含めると約60件に上るという。「日経BP」

一言メモ　　試掘なら影響の少ない地域や国有地で実施すれば？

●中国によるレアアース・レアメタルの輸出規制は日本の実質GDPを1.3～3.2%下押し

◆中国からのレアアース（希土類）の輸入が途絶して部材の供給制約が1年間続き、国内生産が抑えられれば、日本の実質GDPは1.3%（7兆円）程度、就業者数は1.3%（90万人）程度減少する見込みだ。さらにレアメタル（希少金属）も中国から輸入できなくなれば、減少率は実質GDPで3.2%（18兆円）程度、就業者数で3.2%（216万人）程度まで拡大する。
◆特に大きな影響を受けるのが製造業だ。レアアース・レアメタルの対中輸入停止による実質GDPへの影響を業種別に試算すると、多くの業種で減少率が5%を超える。中でも、自動車産業を含む輸送用機械の減少率は17.6%に達する。
https://www.dir.co.jp/report/research/economics/japan/20251205_025454.pdf　「大和総研」

一言メモ　　メンツにこだわる国。政府の努力に期待するしかない。

●系統用蓄電池ビジネス急拡大の中浮上した「サイバーセキュリティ」の課題



蓄電池ビジネスがここにきて急速に拡大している。とりわけ電力系統に直接接続する系統用蓄電池は再生可能エネルギーを巡る電力の効率運用につながり、需給調整市場などでの運用によって利益を出せることから、事業者の参入が相次ぐ。だが、蓄電池ビジネスの拡大とともに、系統接続手続きの遅れやセキュリティー面などリスクや課題も浮き彫りになっている。
系統用蓄電池の開発は急拡大しており、2025年末時点で接続検討172GW、契約申込30GWに対し、実際の連系は640MWにとどまり、多くの案件が待機している。2026年度以降は長期脱炭素電源オークションの案件が順次稼働し、導入量は2029年度以降4GW規模に拡大する見通しである。一方、大規模蓄電池の普及で小型案件は収益性が低下する可能性があり、複数市場を活用した高度な運用を担うアグリゲーターの重要性が高まる。「環境ビジネス」004_04_00.pdf

一言メモ　　契約申し込みの系統連系が待機している。利権につながらなければよいが・・・。

●グリーンウォッシュ炎上対策に、環境表示の実践ガイドブック無料公開　博報堂



博報堂DYホールディングスは、環境省が13年ぶりに改定した「環境表示ガイドライン」に基づき、企業の環境情報発信のポイントをまとめた「実践ガイドブック」を公開した。目的は、根拠が不十分な環境主張による「グリーンウォッシュ」を防ぐ一方、批判を恐れて環境への取り組みを発信しない「グリーンハッシュ」も抑え、「伝え過ぎない」のではなく「正しく伝える」ことで企業と生活者の信頼関係を築くことにある。ガイドラインでは、曖昧な表現を避け、十分な説明や根拠を示し、ライフサイクル全体を考慮するとともに、情報源を確認できるようにすることなどを求めている。
ガイドブックは、ガイドライン改定の概要に加え、広告・広報・マーケティングで実践する際の留意点や広告出稿前のチェックリストを掲載。「完璧でなくても取り組みを真摯に伝える」「一方的に発信せず対話する」など、正直で正確な環境コミュニケーションを促している。「日経BP」

https://www.hakuhododyholdings.co.jp/news/corporate/20260707_guidebook.pdf

一言メモ　　無意識に環境貢献を民間、自治体もPRしがち。

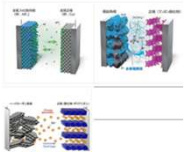
●.富山県初、森林由来Jークレジットの販売を開始　県内企業優先に2万t分



富山県農林水産公社は、公社が管理する森林で創出した森林由来のJークレジットの販売を開始した。同公社は、適切な森林整備によって吸収されたCO2についてJークレジット制度の認証を受け、2026年に初めてクレジットを取得した。　販売可能量は約2万tーCO2で、最小販売単位は1tーCO2。1tーCO2単位で販売する。収益は、公社管理森林の整備・保全に活用し、森林の有する水源 涵養、災害防止、地球温暖化防止などの公益的機能の維持・向上につなげていく。
販売単価（税抜き）は1～50tまで県内企業等単価10,000円、県外企業単価11,000円
認証対象期間は2024年4月1日～2032年3月31日までの8年。プロジェクト実施地の総面積は育成林が6,856.76ha。想定吸収量は認証予定期間の合計値で27万6310tーCO2と試算している。「共同通信」

一言メモ　　一度購入すれば認証期間有効なのか？

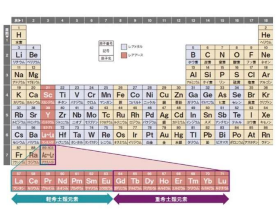
●「脱リチウム」へNEDOが19億円、次世代電池3種を開発　GSユアサらと



NEDOは、「革新型蓄電池技術開発・高度解析」事業で、今回採択された研究では、資源調達リスクの低減と高性能化を両立する3種類の電池系を対象に、産学官が連携して実用化に向けた技術開発を進める。事業期間は2026～2027年度、2026年度予算は19億5000万円。
再エネの導入拡大や電気自動車（EV）、データセンターの増加に伴い、蓄電池需要は今後も大きく伸びると見込まれる。一方で、現在主流のLIBは価格変動や地政学リスクが課題となっている。今回の事業は、こうした資源制約を克服しながら、日本の蓄電池産業の競争力とサプライチェーンの強靱化を図ることを狙う。
今回の研究対象は、**フッ化物電池・亜鉛マンガン電池・次世代ナトリウムイオン電池の3種**。フッ化物電池は、希少資源への依存低減が期待され、高いエネルギー密度を実現できる。亜鉛マンガン電池は、水系電解質を採用することで高い安全性を確保し高いエネルギー密度を目指す。「環境ビジネス」

一言メモ　　将来を見通した長期的技術開発戦略が日本には欠落している。

後記　脱炭素を支える重要鉱物　レアアースとレアメタルの違いってなに？



レアメタルとは、産業上重要だが、埋蔵量が少ない、採掘・精錬が難しい、または特定の国に産出が偏っている金属をまとめて呼ぶ言葉です。
代表例：・リチウム → EVの電池 、インジウム → 液晶・太陽電池　・ニッケル → 電池・ステンレス、
・ガリウム → 半導体　など
レアアースとは、「希土類元素」のことで、17種類の元素をまとめたグループです。（左図の茶色の元素）
代表例：・ネオジム → 強力な永久磁石（EV・モーター・風力発電）　・セリウム → 研磨剤・触媒、
・ランタン → 光学ガラス・電池　他

一言メモ　　鉱物資源は産業上不可欠。科学技術で作れないのか？